北海道消防学校教育訓練等のあり方検討会（第２回）　議事録（簡易版）

１　日　時　　令和元年(2019年)８月２３日（金）１５：００～１６：１５
２　場　所　　道庁本庁舎　地下１階危機管理センターＡ
３　出席者　　別添「出席者名簿」のとおり
４　議題等
（１）意見交換
　①　教育訓練のあり方について
　②　施設整備のあり方について
　③　組織体制のあり方について
　④　道消防学校と札幌市消防学校との連携について

５　議　事
（１）意見交換
　①　教育訓練のあり方について（資料１により事務局から説明）
　○　委員からの主な意見
【函館市消防本部　佐々木次長】
・教育訓練の方向性や自主防災組織などいろいろあるが、事務局のまとめに異存はない。

【苫小牧市消防本部　脇坂消防長】
・教育訓練のあり方について、実践的な訓練ができるようなカリキュラムの編成は、どこの消防も望んでいるのではないかと感じている。
・専科教育に関しても、若年職員が多くなっている事実があるので、そのフォローをそれぞれの現場でしているが、基礎的な部分も含めて、若年者の養成はお願いしたいと思う。
・予防関係では、各消防とも違反対象物の公表を条例改正でされていると思うので、公表制度などもカリキュラムの中にいれていただいて、若手職員に向けてやっていただきたい。

【小樽市消防本部　土田消防長】
・全体を見ても、カリキュラムの編成を目指す、見直すということが要所に記載されているので、このような方向性については、よろしいと思うが、実際にカリキュラムを見直す時に、いかに各消防本部が求める内容の見直しができるかというところが一番重要だと思う。
・あり方検討会の考え方としては、このような方向性で問題ないと思う。
・消防団については、これから消防団の役割は非常に重要となり、地域防災の要として法律も整備されている。消防団の見直しについても、もう少し力を入れていく必要があると思う。

【旭川市消防本部　吉野消防長】
・初任教育の部分で、現場における対応能力に重点を置くことや実践的な訓練など非常にいい方向性だと思っている。

・予防関係では、今、一番大きい問題は違反是正。こうしたところについては、当本部にもアドバイザーがいるので協力できると思っている。

【釧路市消防本部　臺丸谷消防長】
・どこの消防本部も平均年齢がどんどん若くなってきている現状において、特に初任教育については、人を助ける前に自分の身を守る、安全管理の充実を最も求めているところ。
・違反是正については、解消とともに新たにでてくるという現実があるので、そのような状況を踏まえ、さらに予防面の充実・強化が求められる。
・消防団については、常備消防とともに現場で行動するため、常備消防との連携についての教育が求められていると思う。

【札幌市消防学校　稲童丸副校長兼教務課長】
・初任教育において「国の基準に準拠する」という文言があるが、これは初任教育の中で救急科を重複して行うということもイメージされているのか。
（※Ｈ２７の国の検討会では、地域の実情に応じて、初任教育の中で専科救急科（２５０時間）を包含してもいいという内容の報告書になっているため、そのようなことも視野に入れてのものなのかの確認）
→「国の基準」では、初任教育の中に２５０時間の救急科は入っていないため、ここには含まれていない。今後、話し合いをしながらと考えている。
・専科教育で、「指導者の育成の実現に向けた」という文言があるが、これは新たな教育課程を視野に入れているのか。
→警防科の中で、カリキュラムを検討しているところ。
・専科教育救急科について、「地域特性に適合した教育内容」という表現があるが、専科教育にはまさしく２５０時間のカリキュラムがあるが、「地域特性の教育内容」とはどこを視野に入れているのか。
→北海道は周産期の部分で地方では搬送時間が長時間であったり、救急車台数が多いため、同乗している救急救命士の介助の手技まで入れ込んでいかなければならない。、また、今後、止血帯の新たな技術も取り入れていかなければならないということで今年度から試行的にやってみようと考えているところ。

【札幌市消防局　萬年消防局長】
・札幌市消防局長という役割でメンバーとなっている一方、全国消防長会の北海道支部長も兼ねており、全道消防をどうするかという観点から考えても、このような取り組みは非常にいいものだと思う。
・指導者の育成ということは、非常にいいと思う。指導者を育成して、地元に帰って普及をするという仕組みがとても大切だと思う。
　訓練を受けてきた人が帰ってきてどのような影響を及ぼしているのかということが見えないところがあるので、その人のスキルアップはもちろん、組織をどのように高めていくかということは最も大切なので、そのような観点を入れるためには、指導者の育成は大変いいことだと思う。

・教育の質について、どこを目指すのか、ここに記載する必要はないが、それを明確に持っておく必要がある。
・違反処理が大切だという話があったが、予防系教育の中に査察実習の要領に標準を当てるのか、それよりもレベルを高くして違反処理に行くのか、その辺りは熟慮された方がよいと思う。
・文言は、このとおりでよいと思う。

【（公財）北海道消防協会　林常務理事】
・今回のとりまとめの中で、消防団員の果たす役割は期待が高まっている中で、カリキュラムの再構築という形で取り入れていただいたことについては、非常にありがたく受け止めている。特に、その中身を検討する中で、消防団員も火災の現場経験が少なくなっている状況で、研修期間は短く、限界はあるが、実践的な訓練を取り入れるということも検討いただきたい。
・大規模災害時に消防団員が犠牲になっているということも多くあるので、安全教育で自分の身を守るという面もカリキュラムの中でしっかりと取り入れていただきたい。
・自主防災組織の中で、消防団員の果たす役割は相当あると思うので、つなぎの意味においても取り入れた形での仕組みを作っていただけるとありがたい。

【消防大学校　守谷教務部長兼調査研究部長】
・実践的カリキュラムは消防大学校で学んでいる学生からもかなりニーズが高く、地元で生かせるプログラムなので、是非取り組んでいただきたい。
・また、模擬家屋を実際に燃やして、そこを調査するという科目があるが、スキルが上がったと喜んで帰る。
・今年も消防職員が３名程殉職されているが、安全管理に対する教育を重視していこうという形で消防大学校も動いており、同じような動きをしていければ、より高みに行けると思っている。
・このようなカリキュラムの見直しは、高度な研修などもあると思うので、教官の育成に当たっては、消防大学校も活用いただければと思う。

【日本赤十字北海道看護大学　根本教授】
・自主防災組織に関して、北海道は組織率をどう上げるのかということが非常に大事な課題であり、自主防災組織がどのように動くのかということがここで述べられている。北海道は都市間が非常に離れていること、様々な方の支援が入りにくい場所であることを踏まえると、組織率を上げることは地域の安全に大きく資することになると思う。
・それらを踏まえ、胆振東部地震検証委員会でも出てきたが、重要なところは人づくり。地域づくりイコール人づくりになる。その上で、北海道の地域性にあわせたような自主防災組織の組織づくり若しくは、カリキュラムを考えることが重要と考える。
・そうすると、重要なことは、厳冬期の被災を想定した自主防災組織のあり方ということになると思う。これは、他府県では、真似できない北海道オリジナルのカリキュラムになると思うので、是非消防学校で取り入れていただき、北海道が先進的な場所だということになれ

るよう進めていただきたい。
・これに関しては、他府県で様々なものが進んでいると思うので、十分検討、調査をしていただき、その中のいいとこどりをしていただくことが一つ。また、カリキュラムを立てることは、新たに時間やマンパワーが必要になると思うので、教員増などの検討も踏まえて、絵に描いた餅にならないよう進めていただきたい。

【細川座長】
・消防団員教育、自主防災組織の充実強化が大事という話があったが、充実強化していくためには、地域住民の消防に関する事項を含めた教育指導がとても重要になってくる。
・それぞれの地域の常備消防が中心となって、あるいは、消防団員が自主防災組織に対しては、深く関わって、様々な消防に関する救助や応急手当などの指導にあたっていると思うので、特に、自主防災組織の教育のための消防職・団員のレベルアップを図るための教育を充実していくことが重要。

② 施設整備のあり方について（資料２により事務局から説明）
○ 委員からの主な意見
【函館市消防本部　佐々木次長】
・設備等の方向性は結構だと思う。
・一点だけお願いしたいのは、最近、現場経験が少ない若手職員が多いため、地元ではできない施設、学校でなければ経験できない施設を整備していただき、教育訓練をしていただきたい。

【苫小牧市消防本部　脇坂消防長】
・校舎整備等の構成については、今挙げられた中で進めていただけたらありがたい。
・訓練施設等に関しても、地元でなかなかできない訓練ができる施設を整備していただければ、我々としても助かる部分があると考える。
・緊急消防援助隊の拠点施設に関しては、全国の緊急消防援助隊が、多くの地域で消防学校を活用していると伺っている。そういう意味では、予算の許す範囲でそのような対応をされることも大事だと思っている。

【小樽市消防本部　土田消防長】
・施設整備については、あり方検討会の肝の部分だと思っており、施設整備を進めることは、第１回のあり方検討会でも共通の認識だったと思う。
・あり方検討会は決定機関ではないので、最終的には道で最終案をつくり上げるということだが、「整備に努める。」という表現が要所要所にある。「整備に努める。」という表現は、もう少しインパクトがある言葉の方がいいと思う。あり方検討会としては、本当に整備が必要なのだという意思をはっきり示すという意味では、ちょっと弱いという気がしているので、最終原案をつくる中で検討いただきたい。

【旭川市消防本部　吉野消防長】
・校舎整備の方向性については、各施設の必要な面積を十分に確保していただきたい。
・訓練施設については、１回目でも皆さん同じような意見だったが、一番要望の多かったところになるので、整備をお願いしたい。
・緊急消防援助隊についても、このような表現でよろしいと思う。

【釧路市消防本部　臺丸谷消防長】
・訓練施設の整備については、消防職員を派遣している立場として、国の消防学校に求めている基準に適合するよう、特に、ＡＦＴについては、実火災に近い体験ができるため、強く求めるところ。
・全国で、緊急消防援助隊の拠点として消防学校も使われているという現状を鑑みて、燃料、宿泊なども踏まえた施設となるよう要望する。

【札幌市消防学校　稲童丸副校長兼教務課長】
・大きな方向性については、特に意見なし。
・札幌市消防学校においても、若年職員の経験不足に対する教育や、実火災訓練装置の整備が大きな課題だと認識している。

【(公財) 北海道消防協会　林常務理事】
・現場対応型の施設整備を重点的に取り組めるようにしていただきたい。
・緊急消防援助隊の拠点機能の整備について、今、どの程度できているかわからないが、国のシステムとつないで、道路や河川の現状などの災害情報を見られるような整備をしておく必要がある。情報の入手が重要である。

【消防大学校　守谷教務部長兼調査研究部長】
・実践的に体を動かす方が大事だが、図上訓練についても、実際に大規模災害は図上訓練を行うしかないので、そういったところがしっかりできるような環境は大事だと思う。
・消防大学校で、平成２６年度から実火災訓練施設を設置している。
　どうしても煙がでるため、排煙処理を一生懸命やっているが、現在は高性能の装置も開発されているので、そういったものを活用していいただきたい。
・実火災訓練については、地元でもなかなかできず、各都道府県の消防学校でも導入が進んでおらず、１０校程度が稼働している状況のため、消防大学校の施設は評判がよく、増機の検討を進めている。

【日本赤十字北海道看護大学　根本教授】
・北海道消防学校は、道民に安全を提供する人材教育機関であると認識。
　これまで５３年使用され、今後５０年使用する施設ということを考えると、それを踏まえた上での最新のもので整備を行っていただきたい。
・校舎整備の土地に関しては、様々な特性と万が一、札幌で何かあったときにも支援できるという地理的特性を踏まえると、現有地で整備を行うことは理にかなっていると思う。

・可能であれば、道庁の危機管理センターが万が一の場合、そのバックアップ機能としてこの施設が運用されるというように、最後の「活動連絡調整室」の中に道のバックアップ基地としての機能を盛り込んでもいいのではないかと感じる。

【細川座長】

・札幌市消防学校は、初任教育の際、実際に火と煙の怖さを教える教育はどのようにされているのか。

→現在、札幌市消防学校には実際の炎と煙を再現できる施設がないため、高温にした部屋の中にフル装備で入るといった簡易的な訓練のみ行っている。煙の怖さやフラッシュオーバーやロールオーバーなどは経験できないので、画像などで補完し教育している。

・実際に生の火や煙に近い体験が必要と考えているので、新しい機種も施設整備の中で検討していただくことが大事。

③　組織体制のあり方について（資料３により事務局から説明）

○　委員からの主な意見

【函館市消防本部　佐々木次長】

・教官の数については、安全管理を考えると、重大な事故につながるので、定員を確保していただきたい。

・派遣教官について、現在、消防学校で確保に苦慮している状況はあるのか。

→平成２３年に検討会を設置し、派遣教官の養成計画を策定し、現在は計画に則った５名プラス全道枠２名、計７名については確保できており、救急救命士については確保に調整が必要な部分があるものの、概ね全道消防本部の協力は得られている。

・函館市としても、協力させていただきたい。

【苫小牧市消防本部　脇坂消防長】

・あらかじめ言っていただけたら、教官の派遣についても十分ご協力していきたいと思っており、道南支部内の消防本部においても、教官として派遣したい意向もあると伺っている。

・早めに連絡いただければ、十分協力していけると思っている。

【小樽市消防本部　土田消防長】

・教育に当たっては、施設も重要だが、人というのは大きな要素なので、まずは定員を満たしていただくことが重要だと思うので、これでいいと思う。

・派遣教員の記載について、協議の内容を聞いている中でこれを読めばわかるが、派遣元の消防本部の状況等を考慮しながらというのは何を指しているのか、字面だけをみるとわかりづらいと思う。

・組織については、しっかりとした位置づけにしたいということなので、これについては、大変いいことだと思う。

【旭川市消防本部　吉野消防長】

・教員数については、安全管理に重点を置いた配置が必要と考えている。

・派遣教官については、現場経験が豊富で生の教育も十分必要だと思っているので、今後とも必要な協力はさせていただきたい。
　また、２年という期間に限らなくても、短期の専門的な教育についても協力させていただきたい。
・一方、プロパー教官の位置づけも重要なところであると思うので、プロパーと派遣の担当の棲み分けもきちんとしていただきたい。
・派遣元の消防本部の状況を考慮という文言は、当然考慮しなければいけないことなので、この文言はなくても良い。
・組織について、道の条例や規則では、総務部に属する出先機関として消防学校が規定されており、その中に消防学校の所掌事務や内部組織などが示されている。また、危機対策課の分掌事務をみると消防学校に関するということが書かれている。そういうことでは、危機管理監の分掌の中に入ってこないのか。
　議員の委員会の答弁も、消防担当課長が学校のことについて答弁している。そういうものを見ると危機管理監の立ち位置がよく見えないと感じる。
→そのとおりである。事務分掌上は、危機対策課が担当になっているが、災害が起きたときにしっかり危機管理監から指揮命令になっているかというとそこまではっきりと明記されていない。そういう意味では、現行の条例のありようを含めて、新しい方向というか、危機管理監のもとにそのような議論がでないように、しっかりとした指揮命令系統で進めていきたいと考えている。

【釧路市消防本部　臺丸谷消防長】
・教官については、実際に学んでいる職員、指導している現状の教官の負担軽減につながると思うので、確保していただきたい。
・派遣については、当然、私どものところからも出さなければならないと常々考えている。
　早めに一報いただける体制をつくっていただきたいと思う。
・組織については、個人的にはこちらに示されているとおりと考えているが、一消防本部がそこまでいいとか悪いという問題ではないと思っている。

【札幌市消防局　萬年消防局長】
・予算要求しかり、それ以上に人員というのは非常に難しいと思うが、頑張ってやっていただきたい。
・組織の方向性については、危機対策局と一体化した方が消防学校の位置づけ、広域拠点やそれを動かすためのノウハウがつながるので、そのように頑張っていただきたい。

【（公財）北海道消防協会　林常務理事】
・教員の確保については、消防協会も教官の皆さんに消防の現地教育訓練という形で講師や指導をお願いしているが、人数が少ない中で日程調整含め、非常にご苦労いただいている状況。
・本当は、地域防災力の向上や地域防災組織などの関係がでてくるのであれば、１６人と言わず、プラス１人、２人するくらいの意気込みで取り組んでいただきたい。

・組織については、指揮命令系統の関係は、当然、そうすべきだと思う。また、予算や人員の確保の面でもきちんとした方がスムーズに進むと思う。
・ただ、一歩進めて、危機対策部局の本体と、特に消防団や自主防災組織の関係も含めて、人のやりとりなどの面でも流動的にやれるようなところまで進んでいただけると非常にすばらしいと思う。

【消防大学校　守谷教務部長兼調査研究部長】
・人繰りに関しては、消防大学校も難しいところを抱えており、同様の状況。
・消防大学校では、数年前に実火災訓練施設を入れたころに、教官用の宿舎を整備したことにより、遠隔地から来る方の負担が軽減されたということで来やすくなったと聞いている。
　派遣を増やすに当たっては、検討いただきたい。
・組織については、消防長官直属で消防大学校があるという形であり、実際には緊急消防援助隊を動かしたり、また、政府の災害対策本部は東京が壊滅したときに立川に移転するが、消防大学校は移転先に近いため、その対応を行うため、長官からの命を受けて動くという体制をとっているので、参考にしていただきたい。
・自治体の消防本部を所管する部署との連絡、情報共有を密にしなければならないと思っている。

【日本赤十字北海道看護大学　根本教授】
・命を守る部局ということで危機対策局の中に消防学校、人材を育成する機関が入っているというのは、理にかなっているので、その組織構成で行っていただきたい。
　危機対策の中には、防災教育担当課長もいるが、自主防災組織をつくるという意味でも、お互いにコラボレーションしながら進んでいただきたいということと災害対応の現場を見ていると危機対策局と保健福祉部の連動は、間違いなく命を救うということで一枚岩になる組織だと思うので、道庁の一体化ということで、うまく組織づくりをしていただきたいと思う。

【細川座長】
・組織体制については、メリットがあるので一体化した方が良い、情報交換もできるし、活動拠点のサブという位置づけもあり得るのではないかという話もあったが、顔の見える関係が密になる中で組織が強化されればいいと思うので、そういった方向性で進めていただきたい。

④　道消防学校と札幌市消防学校との連携について（資料４により事務局から説明）
○　委員からの主な意見
【函館市消防本部　佐々木次長】
・札幌市との連携は大変重要なことだと思う。ただ、札幌市の諸事情もあると思うので、ゆっくりと協議して前向きに決めていただきたい。

【苫小牧市消防本部　脇坂消防長】
・現状の連携の状況を踏まえた上で、連携強化に向けて話し合い等を持っていただきたい。

【小樽市消防本部　土田消防長】
・函館市、苫小牧市のお二人からご意見があったとおりで、ほかに意見はない。

【旭川市消防本部　吉野消防長】
・現行の連携を継続しながら、中長期的なものも研究していくという形で進めていただきたい。

【釧路市消防本部　臺丸谷消防長】
・同様である。より一層強力な体制をつくっていただけるのではないかという期待も込めて、今後検討していただきたい。

【札幌市消防局　萬年消防局長】
・連携強化については、当然、やっていかなければならないが、これまでの経緯をお伝えすると、元々北海道消防学校があり、札幌市は平成１１年１１月に独自の消防学校を開校した。要するに袂を分けてきたという経緯がある。
　この理由については、教育の違いというか、札幌向けの研修を集中的にやらなければならないということで建設した。
　一方で、弊害として、半年間の初任教育の中で、顔の見える関係を築いていたものが、希薄となってきている。そのため、現在は、初任教育の合同訓練で１泊でその部分はつないでいるが、１泊なので昔よりは希薄になっている。
　最近の災害を見ると、広域、大規模になっており、北海道も地震や自然災害が多発している状況下である。緊急消防援助隊という道外からの応援もあるが、到着まで相当な時間がかかるため、一義的には北海道の相互応援体制で、北海道の消防部隊のみで対応しなければならないということが浮き彫りになってきている。
　しかしながら、例えば、地方の小規模消防本部がいきなり札幌に来て高層ビルの１０階からの火災に対応できるのか、或いは危険要素がかなり高い地下街などの現場で活動できるのかというところが非常に心配である。そのためにも札幌向けに対応できるようにすることが理想と考える。
　ただし、現状として、袂を分けてきた経緯もあるため、いろいろな制約、課題がある。その部分を一つ一つクリアしながら、将来、いい方向に向かっていけばという思いである。

【（公財）北海道消防協会　林常務理事】
・災害が進んでいる中で、顔の見える関係が大事だと思うので、そういう機会を一つずつ共同実施する中で増やしていただきたいと思う。日本人は、同じ釜の飯を食うということが大事なことであるので、そういう機会が増えていけばと思っている。

【消防大学校　守谷教務部長兼調査研究部長】
・それぞれの学校の設立の経緯や意義があると思うので、そういうものを一つ一つ整理して、そういう情報をお互いに共有していくことも大事だと思う。やり方はいろいろあると思うが、そういうところはしっかり整理していく必要があると思う。

【日本赤十字北海道看護大学　根本教授】

・札幌市消防局長の話のとおりで、まずは現状を踏襲しつつ、できる範囲で顔の見える機会づくりを進めていただければいいと思う。

【細川座長】

・防災、危機管理全般を含めて、一番大事なのは顔の見える関係だと思っている。

・ツーと言えばカーというような環境を整えていくことが一番大事。それぞれ事情がある中で、大規模災害が起きたときに、お互いに有効な支援活動ができるような形が望ましいと思う。そのために、学校教育の中でそれをやっていかなければいけないのか、それ以外の合同訓練等でそういうものを培っていくのか、様々な方法があると思うが、議論していただき、いい方向に向かっていただけたらと思う。